

後世に遺すべき文化遺産を 展覧会出展を機に修復。

日本文化の礎となったのは、中国大陸や朝鮮半島からもたらされた数多くの文物である。近年、展覧会などで人気の高い日本画も、その影響を色濃く受けている。しかし、中国絵画の影響を指摘する研究や文献には事欠かないものの、朝鮮半島の絵画の影響を論じたものは、意外と少ない。それを一望できる巡回展の開催を機に、貴重な文化財ともいえる朝鮮王朝時代の絵画の修復が行われた。

朝鮮絵画の全貌を伝える
日本で初めての本格的美術展。

狩野派、琳派、雪舟や等伯、若冲や応挙、さらには北斎や広重など、最近、いわゆる日本画が話題を呼んでいる。展覧会に足を運べば、平日にもかかわらず、入場制限に出くわすことも珍しくない。無論、多少の時間待ちをしたとしても、展示された作品の素晴らしさが、そのわずらわしさを一瞬のうちに忘れさせてくれる。構成力や描写力のもとより、色彩感覚や空間把握など、西洋絵画にはない技法や魅力が際立っている。それらの絵画は、海外に誇ることができる日本の文化の至宝だといえる。

しかし、それらの多くは、日本でまったく独自に生まれ、命脈を保ってきたものではない。その他の文化的文物同様、中国や朝鮮半島などの影響を強く受けて発達したものである。日本画の進み具合や深まり具合を検証したり、その価値を解き明かそうとすると、どうしても中国や朝鮮半島の絵画と比較・検討する必要性が生じてくる。中国からの影響については、すでに数多くの研究があるが、朝鮮半島の絵画が日本に与えた影響については、その影響力の大きさにもかかわらず、これまでほとんど注目されることがなかった。

その間隙を埋め、朝鮮絵画の全貌を伝える初めての展覧会「朝鮮王朝の絵画と日本～宗達、大雅、若冲も学んだ隣国の美～」(主催：読売新聞 大阪本社、開催各館、

『朝鮮王朝の絵画と日本～宗達、大雅、若冲も

学んだ隣国の美～』展 出展作品の修復」事業



静岡県立美術館で開催された展覧会の模様

美術館連絡協議会)が、2008～09年にかけて、栃木県立美術館、静岡県立美術館、仙台市博物館、岡山県立美術館の4会場を巡回した。この展覧会では、とくに朝鮮王朝時代(1393～1910年)の絵画に焦点を当て、山水画、文人画、仏画、花鳥画、風俗画、民画など、総数にして約300点以上が展示された。日本国内はもとより、韓国からも国宝・重要文化財級の名品が出展されたうえ、展覧会名にもあるように、俵屋宗達、池大雅、伊藤若冲などの日本画の巨匠たちが朝鮮絵画を模写した作品や、それから影響を受けていると思われる作品が会場を飾った。

展覧会の構成や文化財伝承に 不可欠だった名作の修復。

一般的に、本展規模の大がかりな展覧会を実現するには、数年の準備期間を必要とする。

「この展覧会のお話が最初にあったのは、2004年のこと。そこから始めて、5年がかりの事業となりました。どこに、どんな作品があるのかの調査、韓国を含めて100以上の所蔵先との出品交渉、図録作成など、やらなくてはならないことは山積みでした」

そう振り返るのは、開催事務局となった読売新聞大阪



同左展覧会のポスターは朝鮮中期の「虎図」から



人気を呼んだ若冲の「白象群獸図」

本社の近藤由利子さん。クリアしなければならない問題のひとつが、出品作の中に修復が必要なものが数点含まれていたことだった。

「数百年前に制作された作品が多いなか、やはり年代からくる劣化や傷みで、早急に修復が必要なものが数点含まれていました。しかし、展覧会の開催には、輸送費や保険料などを含めて多額の経費がかかるため、修復費を捻出するのが困難な状況でした。今回、全日本社会貢献団体機構から助成をいただいたことで、この機会にそうした作品を修復できたことは、後世に貴重な文化財を伝える一助にもなれたのではないかと考えています。もし、この助成がなければ、出品できなかった作品もあったはずで

担当者より



韓国からの注目度も高く、
展覧会のために来日した
人も多くいたそうです。

読売新聞 大阪本社
事務局 文化事業部 部長
松田耕治さん

昨年開催の展覧会ベスト3のひとつに挙げてくださる美術評論家の方もいました。制作した図録も2008年美術館連絡協議会カタログ論文賞特別賞をいただき、高評価を得ることができました。



今後も、本展のような強い
メッセージ性のある展覧会
を提供していきたい。

読売新聞 大阪本社
事務局 文化事業部
近藤由利子さん

100カ所以上の所蔵先との出品交渉、なかでも韓国からの借用は大変でした。しかし、諸関係機関のご協力に加え、AJOSCの助成で作品保全の問題も解決できました。ありがとうございました。

す」と、松田耕治さん。今回の修復の中心となったのは、16世紀後期に描かれた知恩院所蔵の「絹本着色 地藏菩薩本願経变相図」(1幅、209.5×227.3cm)で、本紙全面に見られる肌裏との糊浮きや絵具の剥離の著しい箇所を接着するというものだった。実際の修復には国宝修理装演師連盟 九州支部あたり、約2ヵ月を要した。

世界的な不況や地方自治体の財政難などから、質は高いが、研究的要素の強い展覧会は開催が難しくなりつつあるという。そのような状況下において、これまであまり注目されることがなかった朝鮮絵画を通観できる展覧会を開催し、一般の人々に朝鮮絵画と日本画の関連性を紹介できたことは、地方の美術館や博物館でも学術的意義の高い、大規模な展覧会を実現することができることの証しであり、また、日韓両国の一層の友好にも役立たに違いない。